

妻子待つ、日本に暫く帰ります。 休暇一時帰国のお知らせ♥

美澄の出産も間近に迫り、私も一時帰国することになりました。当地を6月30日に出発し、7月1日に成田に到着します。帰任は8月27日を予定しております。8月上旬迄は主に三鷹に、それ以降は岐阜に滞在します。連絡先は以下の通りです(念のために電子メールのアドレスもお知らせしておきます)。息子は7月5日誕生予定ですので、暫し離れて過ごしてきた妻との愛の確認と子守で大変ですが、もしお近くにお越しの際は是非ジュニアの顔も見に来て下さい。

【三鷹】東京都三鷹市井口1-13-45 鴨下方 Phone&Fax: 0422-31-7510 E-Mail: myamada@ific.or.jp

【岐阜】岐阜県揖斐郡池田町市橋1636 Phone&Fax: 0584-71-0251 E-Mail: dylan@wa2.so-net.or.jp

忌まわしのシャングリラ (1) やる気あんのかネパール人

カトマンズには、'Shangri-la Channel'という地上波のテレビ中継サービスがある。衛星放送である'Star TV'、BBC、CNNに加え、ローカル放送であるNepal TVも見ることができる。ネパール語のリスニングにもなると思い、今年1月に加入した。屋上にアンテナを立てて室内にデコーダーをセットするだけでいろいろなチャンネルが楽しめた。

ところが、3月下旬のある日、新聞を読んでいて「中継ステーションをNew RoadからGyanesworに移すからユーザーは自分でアンテナの方向を調整するように。」という広告記事を見つけた。冗談じゃない、自分達の都合で勝手に中継局を移しながら、なんで俺達が屋根に登って自分達で調節しなきゃならないんだ、そう思った私は、4月下旬にシャングリラのオフィスに行き、「自分でやってみただけダメだったので直しに来て。」と頼んだ。

このアポ、2回もすっぽかされた。時間まで指定してわざわざ自宅まで待っていたのに、時間がなかったとかなんくせつけて全然来ない。切れた私はオフィスに怒鳴り込み、「来れないなら来れないと電話の1本でもよこせ!」「自分ところのスタッフにそれくらいのことはやらせるよう教育しろ!」などとクレームをつけ、翌朝とうとう技師を自宅に呼ぶことに成功した。

しかし、その技師、来たはいいが調節が上手くできず、「中継局のアンテナの高さが足りないから、どうやってもきれいに画像が映らない。これはシャングリラ側の問題なので、解約してリファンドを受けた方がよい。」とアドバイスしてくれた。

私はもう一度シャングリラのオフィスに行って解約の請求をした。ところが、顧客サービスデスクの対応は、「前例がないので受けられない。」の一点張り。「それじゃあ、いつになったらアンテナ直すんだ?」と聞いたところ、同席していた技術主任が「それはわからない。」と答えた。「いつ直るのかもわからないサービスに料金払うわけにはいかない。5、6月分の受信料前払いも返せ。」と私もさらに態度を硬化させた。いっこうにらちが開かないため、私は最後の手段に出た。

シャングリラのオーナーに直接会うことだ。3頁にも及ぶクレームレターを作成し、直接手渡すべくアポを入れた。オーナーからはレターをファックスするよう指示があり、これを送ったところ、2日後には本件を最優先事項として処理するとの回答が来た。その後はトントン拍子でことが進み、アンテナとデコーダーと引換に、5000ルピーは取り返したのだった。

ネパール人は権力に弱い。下がダメと言っても上がOKならOKなのだ。らちが開かないと思ったらもっと上のレベルに話を持って行くとよい。クレームした者勝ちである。外国人の特権乱用と思われるかもしれないが、ある意味では劣悪なサービスを僅かながらでも改善し、要らぬストレスから身を守る1つの手段と言えるかもしれない。

シャングリラを解約して、衛星放送はもう見れないのかということそうではない。もともとパラボラアンテナは持っているの、Star TVだけはなんとか見られる。Nepal TVが見れないのは残念だが、代わりにFM Kathmanduでも聴いてみよう。

そんなお金があるのなら・・・ 年度末のカトマンズ

最近、事務所前の通りは連日大渋滞となる。理由は、埋められている配管の取替工事をやっているからだ。警官まで交通整理に出るが、ルール無用のこの国、ただでも狭い道幅で、対向車にもお構いなしに割り込みをかけるため、にっちもさっちもいかない渋滞に陥る。おまけに質の悪いエンジンに質の悪いガソリン、通りを歩こうものならいっぺんに喉をやられる。

なんでこの時期に工事をやるか。勤の良い読者ならすぐにわかるだろう。ネパールは7月中旬に新会計年度に入る。今は丁度年度末で、日本の3月の光景と同じというわけである。雨季に入ると工事でもできないため、今頑張っているのだ。

それにしても考えさせられる。国家予算の4割を外国からの援助に頼っているこの国が、年度末の予算消化のかけ込み工事やっぺどうするの? 予算がなくて困っている省庁だって多いのに・・・

5月下旬から6月上旬にかけて、教育省の基礎初等教育マスタープランに関するワークショップがあり、JICAから私がずっと出席した。ここで教育省高官が露骨に言っていたのは、「我々は素晴らしい計画を作ったが実行するお金がないので、外国の援助機関には協力してもらいたい。」そんなに計画が素晴らしいなら、大蔵省を説き伏せて予算取って来いよと言ってやりたかったが、会議を終えて事務所に帰る道すがら、年度末工事の大渋滞に巻き込まれると、こんなお金がこの国にあるのなら、学校の先生に給料払ってやれよと思わずにはいられない。

この国では、地方の学校の教員への給料支給が数カ月も滞っているのが常態となっている。小学生の落第率が高いのは教える教員の側にも問題があるが、給料ももらえないのでは教員のモラルも良くはならない。

セレスとの不調和、クリシュナおじさん 我が家の使用人紹介（その3）

我が家の使用人紹介の最終回は、運転手のMr. Krishna SHRESTHAである。この姓名の組合せは多い。うちのお隣にも同姓同名がいる。「シュレスタ」はカトマンズ盆地に古くから住んでいたネワール族の最もポピュラーな苗字である。クリシュナはカトマンズでもネワールの古い家並みが集まるアサン地区の西の方に住んでいる（らしい）が、実家はバクタプールの北にあるサクという町にある。ネワール族だからロキシー（蒸留酒）も飲む。毎晩晩酌やっているらしい。

クリシュナを雇ったのは前の運転手が辞めた去年の4月からで、3月末に帰国したJICAの専門家から引き継いだ。専門家のところで雇われていた運転手は比較的給料が高く、前と同じ条件で引き継いだ時は既に基本給4000ルピーで事務所員の運転手の中では最高、しかも運転好きの私が土曜と祭日はおろか夜が遅くなる時も自分で運転するから、労働日数は少ない超勤は少ないで事務所で最も恵まれた運転手である。他の所員の所では祭日が休みでない運転手が多い。勿論、クリシュナは50歳のいいおじさんだから、最高給は仕方ないし、無理も効かない。本人もあと10年働いたら隠居すると言っている。

そんなおじさんに、セレスはなかなか似合わない。なんたってセレスは事務所一モダンな車なのに、事務所最高齢の運転手が乗っている。初めて運転させた日はエンストをしまくり、前の運転手が非常に優秀だっただけにその拙さが嫌でも目立った（前の専門家の車がA/Tだったので仕方がないが）。判断も悪く、走りやすい広い道しか走らないし、雨等で道が悪くなっていても同じ道しか走らない。融通がきかない。でも、最初の印象ほど運転が下手というわけでもなかった。

クリシュナは俳優のチャールズブロンソンに似ている。美澄は、歌手のスカットマンジョンに似ているという。確かに似ている。すごいダミ声なのでだだこねているおじさんという感じのしゃべり方である。バンドや選挙の前日になると急にそわそわ。私が「明日休んでいいよ。」と言うと破顔一笑。表情が豊かでこちらまで嬉しくなる。

でも美澄にとっては厄介な相手だったようだ。曰く、「買い物に行かせると値切らずに言い値で買って来る」「KCの仕事を手伝わない」「早く帰りたいが」「話し方がぶっきらぼう」「待ち時間にボリュームを上げてカーラジオを聴いていてうるさい」云々。でも苦笑いしながら「しょーがねーな。」で済んでしまうのはクリシュナのキャラクターのお陰である。

目下のクリシュナの悩みは、私達がネパール語でしか指示を出さないようになり、英語を忘れかけていることだ。私がネパール語の学校に行ってくれと言うと、「まだ通うのか。必要ないだろ。」と彼は言う。時々彼が英語の雑誌を読んでいるのを見かけるのは、英語を忘れないようにという心がけであり、感心させられる。

前述のシャングリラチャンネルに私が怒鳴り込んだ時も、外でちゃっかり盗み聞きしていて、「ネパール人にはあれくらい言わなきゃダメだ。」なんてコメントを付ける。なかなか捨てがたいキャラクターである。

サランコットを駆けめぐる

ポカラでの暇つぶしは如何？

会計検査院実地検査に同行してポカラに来て、昼過ぎにカトマンズに戻る日の朝のこと、私は朝4時に起き、ポカラ北西にあるサランコットの丘（1592m）登頂に挑戦した。JICA事務所のアチャリア所員が、出張でポカラに来る度にやっていて、朝4時半に出れば7時半迄にホテルには戻れるというので、負けじと挑戦することにしたのである。

前日会計検査院の方々を案内して山頂に初めて行った。9合目迄は車道があり、残り約100mほどを片道30分かけて登った。その時、同行していたアチャリア所員にコースを聞き、フェワ湖北岸から山頂に向かって直登する歩道があることを確認しておいた。因みに、サランコット山頂には美澄は去年の2月に登っている。勿論9合目から歩いたに過ぎないが。

サランコットはポカラから最も近くてヒマラヤの展望を楽しめる丘として人気が高く、ポカラにお客様を連れて行った場合のお手軽コースとして重宝している。但し、6月のこの時期は朝でないとヒマラヤを拝むことは難しく、朝であっても雲が全くない山々を見ることは不可能である。ましてやこの時期のポカラは夕方から夜半にかけて暴風雨を伴う夕立に見舞われることが多く、サランコット自体が朝方厚い雲に覆われていることも頻繁である。

サランコットに挑戦した当日、やはり雲は厚く、ヒマラヤも全く見えなかった。それでも皆に公言しただけにやるしかなく、4時45分にホテルを出発、バックパックを背負ってフェワ湖畔までジョギングをした。前日の雨のせい、早朝だというのに空気はなま暖かく、かなりの湿気をはらんでいた。フェワ湖畔に着いた頃には既に汗だくで、途中歩きも交えながら北岸の水田地帯に向かった。

ここから車道を通り、いよいよ標高差600mの登坂に入る。ここからは完全ギアチェンジで、歩くしかない。石を敷き詰めた歩道はよく整備されており、ジョギングシューズでも歩きやすい。しかし、緩斜面はやがて急な石段となり、十数メートル登っては一息つくことの繰り返しとなった。高度が増すにつれて霧が深くなって行く。フェワ湖はやがて霧の彼方に見えなくなり、登る目標も確認が難しく、ただただ前日見た光景を思い出しながらひたすら登った。

登坂開始後約1時間で、前日訪れた車道の終点まで到達した。既に時刻は7時近く、これから頂上に向かったら往復で1時間、ホテル帰還が9時近くになって集合時刻に間に合わなくなると計算した私は、そこから車道を道なりに走って下ることにした。ヒマラヤにかかった雲はかなり切れたけれど、空の青さとヒマラヤの冠雪の陰の部分の青さが重なり合い、ヒマラヤの山々の輪郭をわかりにくいものにしていった。折角持って行ったカメラは結局使用するのをやめた。

帰りはジョギング、約500mを駆け下りる。気分は箱根の山下りである。サランコット道路からバグルン街道に出た私は、街道をポカラに向かって緩やかに下って行った。ホテルにたどり着いた時点で所要時間は3時間15分、悪くはないが、やはり8時過ぎてホテルに戻るというのは少し悔しかった。

サランコット山頂付近住民の観光客慣れを非難する記事があつた旅行ガイド「地球の歩き方」に載っていたが、そこで書かれているほど観光ズレしているとは思えなかった。テーブルクロス等手工芸品を売っている店が沿道にはあるが、デザインはなかなか洒落ていると思った。現に美澄はこのうちの1軒でベッドカバーを買っている。会計検査院の方々にもお薦めした。

今回はちょっと時間がかかり過ぎたが、次回のポカラ出張でも時間があればまた挑戦してみたい。一気に山頂アタックもしてみたいと思う。霧が晴ればヒマラヤだけでなく、フェワ湖とポカラ盆地の全景も楽しむことができる手軽なコースである。

「地球の歩き方」のひねくれた見方など気にすることなく、ポカラに来たら素直に登ってみることをお薦めしたい。

忌まわしのシャングリラ (2) まったくこの連中ときたら・・・

ポカラにHotel Shangri-La Villageという高級リゾートがある。去年7月にオープンし、設備が老朽化してきている老舗のFish Tail Lodgeに替わり、ポカラの顔として君臨する。秋篠宮ご夫妻もポカラご訪問時には宿泊されている。

JICA事務所は、出張旅費の宿泊料をHotel Monalisa基準にしているのだから、たとえJICA割引でシャングリラが1泊77ドルに下げたとしても減多に使わない。ただ、日本から出張で来られるVIPなお客様の場合には代替案もなくシャングリラにブッキングするし、その時に限って特別出張旅費としてシャングリラ宿泊をカバーできる宿泊料をもらって所員も出張できる。6月にネパールを訪れた会計検査院実地検査チームの13日～15日のポカラ滞泊時には私も同行したが、この時初めて私はシャングリラに宿泊した。

シャングリラの敷地内のインフラはなかなか整備されており、マチャブチャレを始めとするアンナプルナ山系を見渡すのには絶好の位置にあるため、プールサイドでグラスを傾けながらヒマラヤの景色を楽しむリゾートには最適である。敷地の外は全くの農村で、フェウ湖畔のようにお土産を物色したり、ボートに乗ったりはできない。施設内でくつろぐには丁度いいだろう。

だがこのサービスは最悪、2月号で紹介したナガルコットのClub Himalayaをも凌ぐ。ナガルコットもそうだが、他に有力なライバルがいないと劇的なサービス向上は全く期待できない。いや仮にライバルが現れたとしても、寡占状態が続けばライバルだって漫然と構えてきめ細かいサービスで対抗しようなんて殊勝な心掛けは決して期待できないだろう。私がこれまでに経験したシャングリラの劣悪サービスを幾つか紹介しよう。

- (1) フロントの態度が悪い。航空券のリコンファームを頼んでもすぐに取りかからない。こちらがネパール語わからないと思って、航空会社とは別のところに電話をかけて、フロントにいる客を平気で待たせる。
- (2) 交通の便が悪いのだから、ポカラ空港までのリムジンサービスはやって当たり前である。空港からホテルまでタクシーでも100ルピーなのに、ホテルから空港までリムジンを使うと300ルピーも取る。タクシーを呼んでくれとフロントで頼んでも、例の調子でのらりくらりとやられて、結局タクシーでなく300ルピーのリムジンを使わせようとする。
- (3) 宿泊日程変更をホテルの予約係に電話して伝えたにも関わらず、「何で連絡もなく勝手にキャンセルして来なかった。」とマネージャーがJICA事務所に文句を言ってきた。明らかに内部の連絡システムの未整備である。
- (4) 既に泊まっている客を呼び止め、「今晩は部屋がないので、あなたと一緒に来ている方とツインルームに移ってもらえないか。」と平気で要求してくる。予約係のブッキングミスに客を押しつける不誠実な態度。今回私がこれを要求され、「そんなことうちの大切なお客様に聞けるわけがない。私はこれからチェックアウトしてJICAの常宿に移る。」とごねたら簡単に要求を引っ込めた。そんな要求なら最初からしない方がよい。でもこれはカトマンズの5つ星ホテルでもありがちなことで、シャングリラだけの問題ではない。ここ的高级ホテルはリコンファームしても当てにならない。
- (5) ここのレストラン、テーブルの数よりウェ이터の数の数の方が多い。客が誰もいない時に所長と2人で入ってカクテルを注文したが、10分経っても出てこない。注意して見たところ、ウェ이터が10人もいるのにカクテルシェイカーを振っているのがこの責任者とおぼしき1人だけ。そいつが忙しいからウェ이터がポーッとしているのに全然注文を持って来れないのである。そのくせ、飲み終わるとウェ이터が背後から陽炎のように寄ってきて、「Finished? (終わった?)」と言ってすぐにグラスを持って行ってしまふ。空いた食器は直ちに片付けるのがサービスだと思っている。

率直に言おう。ネパール的高级ホテルのサービスは全く当てにならない。本当にくつろぎたいのであれば、客室数が少なく、従業員とも親しく話ができて、アットホームな雰囲気の中のホテルの方がずっとましだ。ポカラであれば私はHotel Monalisaを薦めたい。掘りこたつに入りながら、オーナーのビマル氏とマルファ直送アプリコットブランデーで一杯やるのは至福の時間だ。

さすがに今度という今度は腹を据えかね、暫くはシャングリラへのブッキングは行わない、最近オープンしたBluebird Hotelを使ってみることにしている。ここだってシャングリラのスタッフを引き抜いたに過ぎないから、帯に短し褌に長し、あんまり期待できそうにない。

嗚呼、また値上げ・・・ どこまで上がるか燃料価格

6月13日、ネパール石油公社(NOC)が石油製品の値上げを発表した。詳細は以下の通り。

ガソリン(1リットル)	Rs. 34.00	→	Rs. 39.00
軽油(1リットル)	Rs. 14.00	→	Rs. 17.50
灯油(1リットル)	Rs. 9.50	→	Rs. 11.00
LPG(液化プロパンガス、1本)	Rs. 380.00	→	Rs. 608.00

ガソリン小売価格は1リットル当たり5ルピーの値上げで39ルピーに、ディーゼル、灯油も値上げ、NOC専売のプロパンも2倍近い大幅値上げだった。ガソリンなど私が来た頃は27ルピーだったが、既に1年半の間に12ルピーも値上がりした。タクシーはこれに対して20%の料金値上げを発表した。

車両燃料の値上がりはまだいい。カトマンズの車両交通量を抑制するから、それなりに大気汚染には効果があるだろう。だが、生活燃料の方が値上げ幅が大きいとどうなるか。ネパールの一般家庭には灯油を使ったコンロがある。中流家庭になるとガステーブルが現れる。これらの使用に影響が出てくる。便乗値上げでインフレが加速するだろう。山間部では薪ストーブの代わりに灯油の使用が奨励されているが、灯油が高くなれば住民は薪使用にシフトして、またまた森林破壊が進むだろう。

聞くとところによると、今回の値上げはNOCの赤字体質打破のためだそうだが、同じ議論、どこかの国の某国有鉄道で聞いたことありませんか？国有の石油会社が放漫経営なのは当たり前で、慢性赤字のつけは全て消費者が背負わされることになる。おまけにカトマンズの車両排気ガスの最大の原因は燃料の質にあると言われており、ガソリンに灯油を混ぜて売られており、NOCもそれに荷担しているとの噂がもっぱらである。NOCの上の方の連中には会ったことがあるが、腹黒そうな奴等だった。

私の仕事紹介 (その16) この俺がコンピュータ？

6月は激動の1カ月だった。先述の基礎初等教育ワークショップへの出席、会計検査院海外実地検査への同行、村落振興・森林保全計画の中間評価ミッションの準備と受入、そして休暇一時帰国の準備と、殆ど休日返上で仕事をした感じである。

この慌ただしい6月、所員の大野さんに帰国命令が発令された。大野さんは、以前本部の情報管理課にいて、コンピュータに詳しい。ネパール事務所でも、ネットワーク化や業者との保守管理契約等、コンピュータに係るありとあらゆる業務を一手に引き受けて下さっていた。プライベートでも事務所員でインターネット加入の第1号だった。興味があったらばこそだ。

その大野さんの帰任に辺り、コンピュータ担当を誰が引き受けるか。後任の工藤さんはあまり強くないということで、比較的コンピュータを知っている(?)私に白羽の矢が立った。私にはコンピュータのことをわりとよく知っている美澄という強い味方がいる。インターネットを始めたのだから美澄だし、いざとなったら助けてもらおうと計算し、不承不承ながら引き受けることにした。業者との保守管理契約に関しては、法律のスペシャリスト、ネウバネさんに手伝ってもらおう体制にした。

それでも未だ半信半疑、本当に大丈夫か不安で仕方がない。しかし、一時帰国中に集中学習できるではないか・・・

2カ月も休暇があると、これを機会にいろいろ勉強しようとする。しかし、往々にしてやらないで終わってしまうことが多い。今回もネパールから分厚い書籍を数冊持って帰り、休暇中に読破するつもりであるが、果たしてうまくいくかどうか？

麗しの花ジャカラダ

雨とともに去りぬ

サンチャイ通信6月号では紹介できなかったが、5月はジャカラダの花が満開だった。カトマンズの中心ラトナパークの周辺の並木道は軒並み紫の花が咲き誇り、新緑に花の紫が鮮やかに映えていた。桜によく似た樹形である。我が家にもジャカラダの木が2本ある。まだまだ細い木なのであまり開花しなかったが、藤の紫をさらに濃くしたその花は、それでもひときわ目を引いた。ネパールでは1年中様々な花が町を彩るが、ジャカラダはその中でも最も美しい花だと誰もが思う。

もし5月にカトマンズを訪れる機会があれば、ラトナパーク周辺を歩いてご覧下さい。3月に鮮やかな紅い花を咲かせるラリーグラス(シャクナゲ)は山に行かないと見れないが、5月のジャカラダは町でも見ることができる。

暦の上では今年の雨季入りは6月11日、ジャカラダの美しい花もこの日が近付くにつれて徐々に散っていった。町にジャカラダの紫が途絶えた時、ネパールは暫し退屈なる雨季に入っていた。

こんにちは、ボクのなまえは「みきお」です！

私の一時帰国が出産に間に合うかどうか心配していたら、案の定6月17日深夜に破水した美澄は近所の上原産婦人科に緊急入院。診察の結果、子宮口も開き始めていて陣痛も断続的に始まっているということで、18日か19日出産と告げられました。

三鷹のお母さんからは途中何度か経過報告の電話をいただきましたが、産院から遠く離れ、妻の側にいてあげられない、待つ身の辛さを味わいました。夜はゆっくり寝てられない、朝の日課のジョギングもキャンセルして自宅待機。仕事に出ても気もそぞろ、内勤してても落ち着きません。今どうしているのだろうと考えると何も手に付かない状態でした。

幸い美澄は18日午前11時43分、無事に元気な男の子を出産しました。2866gの標準サイズ、分娩室に入って約2時間の安産でした。クリシュナやシータにも知らせました。皆大変喜んでくれました。出産時の苦労話は、また美澄自身の手によって披露する機会もあるかと思えます。

さて、肝心の命名ですが、赤ちゃんが男の子らしいとわかった時点からもう半年以上あーでもないこーでもないと堂々巡りの議論を美澄としてきました。うちの母が昔から画数に詳しく、母にも納得のゆく名前を考えるのはなかなか大変な作業でした。美澄の出産によって、命名もいよいよ待たなし、一時帰国した後の最初の父親の仕事は出生届だけに、それまでには結論を出さねばなりません。会計検査院実地検査や村落振興・森林保全計画巡回指導調査団の受入をこなしている間もさんざん頭をひねり、ようやく結論を出しました。勿論、本人の顔を見ないと最終決断はできませんが。

山田樹生 (やまだみきお)

なかなかエコロジーな名前でしょう。森を守り、木を育てる、環境に優しい人間に育ててほしい、また1本筋の通った太い生き方をしてほしい、そんな願いを込めて名付けました。そう言えばタレントの元「光Genji」に同じ名前のメンバーがいましたね。外国人にも'Mick'とか'Micky'と言って親しんでもらえる名前だと思います。最初、ネパールにちなんだ名前も考えてみたのですが、山々の森林破壊の惨状を目の当たりにして、これもネパールにちなんだ名前かなと思っています。

21世紀に向けたこれからの日本、その将来は決して明るいものとは言えません。政財官の各界汚職、平気でウソをつく大人、猟奇殺人、病原性大腸菌に放射能、電磁波。消費者に厳しい老齢福祉、医療福祉改革、それに税制改革。高い生活コスト・・・私達の生まれ育った日本よりも、これからの世代が生きてゆく日本はもっと厳しい社会となることでしょう。そんな中で、樹生には元気で逞しく、弱きを助ける優しさをもって育ってほしいと父親としては望んでいます。

編集を終えて・・・

★妻の出産には絶対立ち合うという夢は水泡に帰しましたが、一刻を争い慌てて帰るより、余裕を持った空の旅にて一時帰国できそうです。6月16日頃からの美澄のファックスで1日1kgペースの体重増加が触れられるようになり、これは出産間近ではないかと内心覚悟を決めておりました。出産シーンは見れませんでした。またのお楽しみにとっておきます(美澄は、痛くて当分嫌だと言っていますが)。本当は私は6月18日から24日までまたポカラに出張に行く予定でしたが、会計検査院のカトマンズ日程同行のため、出発を21日にずらしたのです。お陰で大事な時にカトマンズにいらることができました。7月、8月を日本で過ごすために今回のサンチャイ通信は大増4ページでお送りしました。文字が多すぎて読みづらかったらご免下さい。梅雨から夏本番を迎えるこれからの季節、皆様体調を崩されたりされませんよう。(浩司)